

明治9年10月5日、 葛西学校開校！

(現在の松江小学校)



江戸時代葛西学校より

江戸時代の教育は、おもに〈寺子屋〉で行なわれていました。そもそもは読み書きや算数を教える場が地域のお寺にあったことから〈寺子屋〉と呼ばれるようになりました。

明治5年に学制が公布され公立の学校が発定すると、〈寺子屋〉は〈家塾〉と呼び名も変わりました。江戸川区域の〈家塾〉は当時約30ヵ所あったようです。

江戸川区最初の公立小学校は〈葛西学校〉で、現在の東小松川3丁目の善照寺を借りて開校しました。当時、新築の小学校は全体の約26%しかなく、多くは寺院や民家を利用していました。

【明治時代の地図・葛西学校の位置】



江戸時代江戸市街図

【現在の小学校73校の位置】



お寺の中に
教室があったんだね。

なんか静かで
勉強に集中できそう！



防災機能も省エネ機能もおまかせ！ これが公立小学校の最新スタイル。

江戸川区では老朽化した区立小・中学校の改築を進めていますが、松江小学校はその第1弾。平成25年1月に改築が完了し、最新型の校舎として生まれ変わりました。開放的な教室やメディアセンター、広い音楽室や理科室といった「教育施設の充実」と災害時の「避難機能」、「省エネ」に配慮した施設など、様々な技術とアイデアが凝縮された快適な校舎です。



一層上には緑地やプールを配置し光や熱をさえます



使い方いろいろ、 学年活動スペース

休み時間には教室以外の遊び場として、放課後はダンスの練習スペースなどに。また、保護者会の集会スペースや災害時の避難所スペースとしてなど多目的に活用します。



パソコンがスリリ！ メディアセンター

分散しがちだったパソコンルームと図書室を学校の中心に配置し、情報スペースとして両方を機能的に活用できるようにしました。高学年中心に調べ学習などを実施しています。



2階の広～いテラス

休み時間は遊び場として使うことができ、緊急時には避難経路としても活用できます。



集中して観察できる 実験スペース

理科室は教室の真ん中に広いスペースがあり、実験の様子を全員で見ることが出来ます。



省エネナビゲーターで電気
使用量をチェック



吹き抜けがあり
開放的な空間です

美しいニッポンに！環境美化委員会

環境美化委員会では新校舎の環境を美しく保つことや省エネ活動などに自発的に取り組んでいます。この日のプログラムは
1 プールの雑草そうじ
2 かべや床の汚れ落とし
3 リサイクルの上置きのペイントでした。このほかペットボトルキャップの整理や教室・トイレのスイッチの消し忘れのチェック、リサイクルボックスの活用などにもチャレンジしています。



開放感ある オーブントア形式の 教室(中・高学年)

中・高学年の教室の壁の真ん中部分を取り払い、開放的な(オープン)「セミオープン」形式にしました。1・2年生は各室に玄関を設置することで、登下校や休み時間は教室からそのまま外へ出入りできるようになっています。



音響バッチリ！ 階段式の音楽室

松江小学校は区で最初にプラスバンドを結成した小学校だけに音楽には力を入れています。第一音楽室は合奏用、第二音楽室は合唱用で、楽器室も広く充実しています。



眺めも抜群！ 3年ぶりに プールが完成

屋上プールからは、東京タワー、東京スカイツリー、タワーホール船堀のすべての絶景が見渡せます。プールの水は緊急時にはトイレの水として使用します。



【器に負けない充実した人づくりを目指す】

広々とした空間やデザインに優れた各教室を前に子どもたちは、とても新鮮な気持ちで学校生活を送っています。私たちも素晴らしい環境に負けないよう、充実した実りある教育活動に取り組んでいます。

門田博司 校長



【去年よりも日焼けしている児童が増えました】

夏休み明けにある教員が「今年の始業式は何か違う」と首を傾げたのです。過去2年間の違いは、日焼けした子どもたちの数の多さ。完成したプールで存分に泳ぐことができたのです。環境で人は変わるんですね。

高橋 真 副校長



使い方自由！ 秘密の隠れ家 (デン)

プライベート空間で落ち着きたい子どものための場や、子ども同士のコミュニケーションの場として活用します。



江戸川区で
一番新しい
校舎は？

区内最古の小学校が
実は最新の
小学校なのよ！



放課後ワンダーランド!

江戸川区ならではの放課後『すくすくスクール』

平成17年度から区立小学校73校全校において実施している江戸川区ならではの放課後教育システム、それが『すくすくスクール』です。

学校の近くに住んでいる方々の指導のもと、サッカー、カヌー、一輪車、将棋、茶道、琴、和太鼓など、さまざまな活動が行なわれています。子どもたちは〈自分たちの意思や責任で行動する〉という力をも身につけながら、家庭や授業では学ぶことのできない体験や出会いを経験しています。

江戸時代から未来につなぐ。郷土の伝統芸能。

【東小松川小学校すくすくスクール／葛西囃子教室】

江戸川区の無形民俗文化財に指定されている『葛西囃子』は、約300年前の江戸時代から伝わる郷土芸能。江戸時代の江戸川区が農村地帯だったころの名残で、農家で使っていた桶に和太鼓をのせるのが大きな特徴です。



先生達やじいさん、
お母さんもおもしろい
です。
(5年生)



お前とて上手に
太鼓をたたけよう
とわかった。
(2年生)



太鼓をたたいて、
いろいろな音楽を
作ることができた。
(1年生)

初心者でも安心・快適。水の上をス～イスイ。

【下小岩第二小学校すくすくスクール／カヌー教室】

毎年9月上旬の1週間、学校のプールを借りて行なっている『カヌー教室』は、今年で8年目を迎える人気教室です。『江戸川カヌークラブ』の協力のもと、基本的な技術指導や水遊びを通じて、自然と親しむことの楽しさを学びます。



ゴートンが出来る
たり、いざあきま
からたのしむ
(3年生)



カヌーとカヌー
ジャックとカヌー
はあがきで遊ぶ
のが楽しい。
(4年生)



水の上を滑るの
り、パタパタとリ
ムに動かすだけで
上手に滑ったよ。
(2年生)

児童たちの
声

放課後も
ワクワク体験が
いっぱい
あるんだね。

近所に住んでいる
方々が
いろいろな教室を
聞いてくれるのよ。



えどがわ から世界へ 〈青少年の翼〉



〈青少年の翼〉とは？

江戸川区では、国際人としての感覚を持った人材を育てるという目的で区民の寄付によって設立された〈野村・立井国際交流基金〉を活用して、区内在住の中学2年生から高校3年生の青少年を、毎年海外に派遣しています。

今年の〈青少年の翼〉では…

平成25年度の〈青少年の翼〉では夏休みの12日間、5カ国に青少年を送り出しました。

アメリカ / シャーウッド市

自然豊かな町でボランティア活動等を通じて市民交流

アメリカは、自然豊かなオレゴン州シャーウッド市に訪問。ホームステイやボランティア活動を通じてアメリカの文化を学ぶことができました。



カナダ / パンクーバー島

本格的キャンプ体験を通して現地青少年と交流

カナダ西部のジョージア海峡の大小の島々で自然体験。大自然の真中にあるホーンビー島で、カヤックや日本祭り、パンクーバー島でホームステイを体験してきました。



イギリス / タビストック町

歴史あるイギリスの町で生活習慣・文化を学ぶ

町長への賓客訪問、ホームステイ、乗馬体験、小学校訪問、観光、英語研修などを楽しみ、帰路にはロンドンやオックスフォードの街なども見学してきました。



ニュージーランド / 南島ホキティカ町

大自然にふれ、地域の行事にも参加しながらの異文化体験

地区長表敬訪問、学校体験、ホームステイ、マオリ(原住民)式歓迎会、水鳥見学など、文化や人との交流から、大自然の体験までを楽しみました。



オーストラリア / ゴスフォード市

学校体験・ホームステイを中心とした姉妹都市交流

今年度で江戸川区はゴスフォード市との姉妹都市協定締結25周年を迎えました。开港日は歓迎ムードの中で現地入り。ホームステイ先の家族との楽しい交流を体験してきました。



江戸川区では
毎年100人、
海外に中高生を
派遣してるんだって！

うちやましいわ。
私ならオーストラリアで
コアラにあいたい！！



田んぼも水車も竹林も ひょうたんもある小学校。

篠崎第五小学校では環境教育アドバイザーの奥津久男さんの指導のもと、1年生～6年生までの全学年があさがおからたけのこまで野菜を中心とした栽培を計画的に実施しています。5年生の田植えや刈り取り作業では、学校と地域を結ぶコーディネーターの役割を16年間にわたり担っていただいています。



〈栽培〉を図工や理科の 授業に取り入れる

収穫したひょうたんに好きな絵を描き入れることは4年生の図工の授業として行なっています。水車を運んだり、井戸を掘ったり、田んぼを作ったりといった作業は地域の方がすべてやってくれました。子どもたちにとっても野菜がどうやってできるかを観察できますし、素晴らしい体験学習になっています。

福井和子校長



植物を育てるのも 大切なのは愛情です。

学校に来ると田んぼや栽培しているものの様子を見て、「そろそろ草取りをしたほうがいい」などとアドバイスします。子どもたちに伝えたいのは愛情の大切さ。ひょうたんもただ植えるだけではだめで、愛情を込めて植えないと実がならない、「それが一番大切なことだよ」と指導しています。

奥津久男さん 環境教育アドバイザー

6年生に突撃インタビュー



5年生の時のたけのこ掘りでは、たけのこを傷つけないように慎重にやっていたんだけど傷つけちゃった。学校でたけのこを育てたり田植えができるのはうれしいです。

たけのこは地上に出ているのはちょこっとだけど、掘るといきなり大きくてびっくりしました。長すぎるとおいしくないそうです。ちょうどいい大きさのたけのこを見つけるのが難しかったです。

田植えの時に足がうまっちゃって大変でした。でも、けっこううまくまっすぐに植えられました。奥津先生は「ちゃんと幅をあけないと米ができないぞ」とか教えてくれて、そんなに恐くないです。

竹の皮入りの卒業証書

発案者は奥津さん。竹の皮の自然にはがれたものを子どもたちが集めて干して、蒸して、木槌で叩いて、叩き終わった細かい繊維を和紙の中に入れ、世界でたった一枚の自分の賞状づくりをします。



水車で水を
くみ上げて田んぼに
流しているんだ。

学校応援団の
みなさんの
手づくりなんだって。



愛する学校のためならば。熱いぞ!『学校応援団』

「子どもたちのために役立ちたい」という保護者・地域の方々が、学習支援や読み聞かせ、環境整備など様々な取り組みで、学校をバックアップするのが「江戸川学校応援団」。すべての小・中学校で実施されています。

江戸川小学校

『えどしょう』の子どもたちは地域の宝物

保護者の方々が開校の翌年から校庭の清掃の手入れを開始するなど、江戸川小学校では長く学校を支えてくれた人たちが学校応援団も盛り上げています。

江戸川区立江戸川小学校 向井一郎副校長

読み聞かせボランティア

子どもたちがざわついている時は大きな声で読んだり、質問を投げかけたりしてお話を集中してもらう工夫をします。ふだん子どもが見られない他の図書館の本などを見るべく見つけてきて読むようにしています。

学校応援団 木村真子さん

用具制作ボランティア

矢萩肇次さんはもと小学校教員の方で、素朴な用具をいつも考案してくれます。誰かが「こんな道具があればなあ」とつぶやくとたちまちのうちに実現してくれるアイデアマンなんです。

学校応援団 〈発明工房〉矢萩肇次さんについて / 向井一郎副校長談



↑どんぐりなどに穴をあける道具
→黒板拭きクリーナーの台

活動内容(小学校)



活動内容(中学校)



小岩第四中学校

子どもたちは《まちで育つ》

子どもたちにとって学校応援団のみなさんは社会との接点の一つ。学校の経営方針《まちで育つ》のとおりに、家庭や地域の教育力を積極的に活用して子どもを育てていきたいと考えています。

江戸川区立小岩第四中学校 岡久津勝利校長

図書ボランティア

図書の整理や戻って来ない図書の督促、ポスターづくりなどを手伝っています。「宮澤賢治ってまだ生きてますか?」といった生徒さんとの会話を楽しみながら、本の世界への扉を開けていきます。

学校応援団 佐々木弘子さん



清掃ボランティア

『荒川グリーンエイド』では川の周辺の清掃、ゴミ拾いなどに毎回20〜30人くらいの応援団の方が参加します。

小学校VS中学校、菊づくり名人対決!



小岩第四中学校 学校応援団長 兼コーディネータ

三本仕立ての大菊の栽培は土づくりから植え替え、水やりなど手間がかかって大変ですが、子どもたちと丹精込めた菊の立派な花が咲いたときには本当に感動します。

学校応援団 石松美喜子さん



江戸川小学校 菊ボランティア

中学校の40周年の記念事業で菊を飾ったのが最初で、それから毎年菊づくりを続けています。いまはビッグドーム型菊を育てており、秋には赤、ピンク、黄色の花が咲きエントランスを彩ります。

学校応援団 高辺重一さん



友達のお父さん、お母さんも応援団なんだ。

保護者や地域の方々が学校を応援してくれるのよ。

